

2022.7.14 (木)
第2回例会
(通算3671回)

2020-2021年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「創り出そう身近な奉仕を 友情、愛情 そして熱意で」

第85代会長 滝越 康雄
副会長 清水 輝彦
幹事 中島 政徳
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2022-2023年度
国際ロータリーテーマ



2022-2023年度
R1会長 ジェニファー・ジョーンズ
第2500地区ガバナー
久木 佐知子 (旭川西 RC)

月間テーマ

本日のプログラム 「ガバナー公式訪問例会」(担当:理事会)

次週例会 「三役・四大委員長挨拶」(担当:理事会)

- ロータリーソング: 四つのテスト
- ソングリーダー: 川合 隆俊君
- 会員数 99名
- ビジター 国際ロータリー第2500地区 久木 佐知子ガバナー
" 佐藤 友康副幹事・早川 智浩副幹事
国際ロータリー第2500地区 第7分区 美馬 俊哉ガバナー補佐
" 本城 慶次郎ガバナー補佐幹事
- ゲスト なし

会長の時間

滝越 康雄会長



お食事の方は、そのままお続けください。少し時間が押していますので、少し早めに話したいと思います。

皆さん、こんにちは。本年度2回目の例会になります。先週『表敬訪問例会』にご出席いただきましてありがとうございました。そして今日は久木ガバナー、美馬ガバナー補佐、本日のご来訪ありがとうございます。改めて歓迎とお礼を申し上げます。

先週からスタートしました『ガバナー公式訪問』ですが、当クラブで4回目、明日は釧路地区を終え帯広管内の6分区を回られるということということで、これから残り61クラブを訪問予定で、まだまだ始まったばかりでございます。

R I 第2500地区で初めての女性ガバナーでございます。R I 会長も女性。まずロータリー組織図の縦糸を女性で結ぶ時代であります。釧路クラブも史上初の女性会員・池田いづみさんが勤務先の人事異動で退会されました。残念ですが、どうしようもありません。血眼で女性会員を探すより、自然の巡り合わせで入会者

を待つのも釧路クラブらしいと思っております。

話は変わりまして、ガバナーが掲げた方針の中の「紡ぐ」という表現ですが、昔の機織りで縦糸と横糸をより合わせ、地道に布地をつくる作業。コットンコットンという音が聞こえるような表現でございます。まさしく日本の原風景でもあります。

ロータリーの組織づくりも、事業活動も、機織りと同じです。本年度もいろいろと新事業をはじめ継続事業を計画しておりますが、私、何かの本で見ました「成功は結果であって、目的ではない」。何よりも今年度は過去の体験もありますので、無事に事業活動をこなしたいと思っております。釧路クラブも、よりよいクラブ活動を目指して活躍したいと思っておりますので、向こう1年、ガバナーのご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

何よりも、向こう1年、ガバナーのご健康と無事をご祈念申し上げ会長挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

新入会員紹介 スポンサー白幡 博君

私から戸川さんをご紹介させていただきます。本日、久木ガバナー公式訪問例会で入会ということで、大変記念に残る入会だと思います。

戸川さんは、6月1日に前任の山田支社長の後任とし

て支社長に着任をされております。先ほどお話をしましたが、ご家族は、現在札幌で奥様と男の子が3人。高校生・中学生・小学生ということで、うまくピタッとはまっているような気がいたしました。「とても楽しみだ」と本人も言っております。奥様をはじめお子さん方は札幌ですが、本人は東京都の出身だと聞いております。

趣味は、さすがJ Rさんですね。旅行が趣味ということでございます。

それでは、早速ですけれども戸川さんから入会のご挨拶を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

新入会員挨拶

北海道旅客鉄道株式会社 釧路支社

支社長 戸川 達雄君



J R北海道釧路支社の戸川と申します。どうぞよろしくお願いたします。

歴史と伝統のある釧路ロータリークラブに入会できとても嬉しく思っております。

私は前任が札幌におりまして、こちらの方へは出張で来ることは多々ありましたが、やはりこちらで暮らしてみても、「やっぱり釧路は良い所だった」と言えるように務めて行きたいと思っておりますので、前任の山田ともどもどうぞよろしくお願いたします。

本日はどうもありがとうございます。

(久木ガバナーから新入会員へ地区バッジ進呈)



新入会員へ歓迎挨拶 滝越 康雄会長

戸川会員、本日ご入会おめでとうございます。心から歓迎を申し上げます。

ロータリーは、親睦を大事に考えております。例会に参加をしていただき1日も早く雰囲気になれて交流を深めていただければと思います。

戸川会員の所属委員会は親睦委員会です。横田委員長、いらっしゃいますか。横田委員長が担当ですのでよろしくお願いたします。

以上でございます。

乾杯挨拶 吉田 潤司パストガバナー

久木ガバナー、遠路はるばる旭川から来ていただきましてありがとうございます。



R I 会長も女性、2500 地区も初の女

性です。久木さんとは私も長くお付き合いをしていますが、非常に真面目な方で、几帳面にきちんきちんと物事を行う方で、何か素晴らしい道を開いてくれるのではないかと感じております。

先ほどの『会長・幹事会』、また『クラブ協議会』で、素晴らしいいろいろご指摘ご指導をいただきましてどうもありがとうございました。釧路クラブもリーダークラブになるべく、今後も頑張っていきたいと思っております。

北海道は、本当に広くて、今日の例会のレジメを見ましたけれども、たった8クラブを回るだけで5泊されるのですね。私もガバナーになりまして、いろいろな地区へ行きました。私の時で確か「40泊～50泊ぐらいした」と言いましたら、みんなが本当にびっくりするのです。ある人が「私は15泊しました」と自慢をしていた人がいましたけれども、それから見ましたら本当に広いです。

私も健康には自信を持って頑張っていました。さすがにすべてが終わって釧路へ戻って来て、うちのクラブともう1つのクラブを残した時に風邪を引きました。すごく熱が出まして「肺炎の一手前だ」と言われました。緊張をしていたのか、翌日にはけろっと治りましたけれども。

過去にはガバナーの中でも健康を害される方もいました。久木さんは健康そうに見えますけれども、十分に睡眠をとって、十分に美味しいものをとって、楽しんで、また厳しく指導をしていただき、この公式訪問を無事に終えられることをお祈りしております。

頑張ってくださいようにお願いしまして、乾杯をしたいと思います。

では、お願いたします。

では、久木さん、頑張ってください。

「乾杯」

■本日のプログラム■
「ガバナー公式訪問例会」

国際ロータリー第 2500 地区 久木 佐知子ガバナー



釧路ロータリークラブの皆さん、こんにちは。2022—2023 年度のガバナーを拝命いたしました久木佐知子でございます。旭川西

ロータリークラブに所属をしております。日頃より皆さまには、クラブの運営とそして地区の活動にご協力をいただきまして感謝申し上げます。

7月1日から新しい年度を迎えました。世界的なパンデミックもあり、この2年半の間活動が制限されました。クラブの運営も大変ご苦労されてきたことと思います。私自身も『国際協議会』をはじめ、すべての研修がオンラインでしたので、こうしてクラブを訪問させていただき皆さまと直接お会いできることが本当に心から嬉しく思っております。

先ほど、『会長・幹事懇談会』に続き『クラブ協議会』が開催されました。滝越会長の今年度における「意気込み」そして「熱意」、各委員長様の活動方針をお伺いして、こちらのクラブは素晴らしいな、活気があるとお見受けいたしました。滝越会長をはじめ、どうぞ皆さんお一人お一人がリーダーシップを発揮していただき、その行動力で2500地区を牽引して行ってほしいと思います。

本年度も依然としてコロナ禍での活動になりますが、状況を見ながら地区の行事も再開させて参ります。ぜひとも計画中の事業に加え、新しい事業にも取り組んでいただければと思います。

国際ロータリー 117 代目の会長にカナダのジェニファー E. ジョーンズ氏が就任されました。国際ロータリー初の女性 R I 会長の誕生は、世界に大きなインパクトであると思います。多様性・公平さ・インクルージョンを尊重する R I の基本方針に通じる素晴らしい出来事と多くのロータリアンが歓迎しています。

もし、国際ロータリーの生みの親、ポール・ハリスがいま生きていたらこのことをどう語るでしょう。きっと「1人の素晴らしいロータリアンが R I 会長になった。その方が女性だったというだけこと」と言うでしょう。

私も同じ年にガバナーを務めさせていただくことに大きな喜びを感じています。この年度は、私を含め日本の34地区の中で3人の女性ガバナーが誕生しました。他にも大きな変化が生まれています。ローターアクトが国際ロータリーに加盟し、現在 R I の会員数は世界で140万人になりました。日本では、ロータリー衛

星クラブをはじめとする様々な形態のロータリークラブが生まれています。そして国際大会から例会に至るまでオンラインが活用されるようになりました。

先月、アメリカのヒューストンで、3年ぶりに対面式で『国際大会』が開催されました。2500地区から漆崎副ガバナーをはじめ10名が参加しました。例年は35,000人ぐらいが参加するそうですが、今年は11,000人ということです。しかし、私にとって素晴らしい体験と静かな感動がございました。

6月5日、大会初日、『日本人親善朝食会』が開催されました。R I 理事や各地区のガバナー、エレクト、パストガバナー、など210名が参加をし、シェカール・メータ R I 会長、ジェニファー E. ジョーンズ R I 会長エレクトも同席され、和やかな雰囲気の中で朝食会が進行しました。

私は同期のエレクトとともに、ジョーンズ R I 会長エレクトの元へ行きました。私が年度のガバナーであると分かると両手を広げ包み込むように、ひとりひとりの肩を抱いてくれました。私は静かな感動を覚えました。インクルージョンとは、このような思いを人に抱かせることではないでしょうか。

R I 会長はとてもフレンドリーで、人を包み込むような優しさに溢れた方です。また目的達成のための粘り強さとダイナミックな考え方を併せ持った方です。ご自身の Facebook ページをお持ちで、そちらから情報を発信しています。効果的な情報発信、伝える力を持った方です。私は、ジョーンズ R I 会長は新しいタイプのリーダーだと思います。

また、ロータリーの素晴らしさを体感する出来事もありました。開会式には、さまざまな民族衣装に身を包んだ参加者が会場に彩りを添えていました。ローターアクトの顔も見えます。国際大会には、200以上の国や地域が加入していますが、国連の加盟国より多いと言います。ステージでは、参加している国の国旗の入場が始まりました。ウクライナの国旗が入場した途端に、会場の全員が立ち上がって大きな声援を送りました。11,000人の心がひとつになった瞬間です。ロータリーのつながり・深い絆を感じました。

さて、『ロータリーの友』7月号にジェニファー E. ジョーンズ R I 会長のメッセージが載っています。R I 会長は、私たちひとりひとりにロータリーのストーリーの語り手になることを求めています。皆さんは、ロータリークラブのことを他の人に話をする時、どのように伝えていらっしゃいますか。私はこのように話しています。「ロータリークラブは世界のほぼすべての国・地域に存在し、140万人以上の会員からなる国際的な奉仕団体です。WHO やユニセフとも協力をして人道的奉仕や地域社会の課題に取り組んでいます。すべての職業において倫理を大切に、親善と平和の確立に寄与することを目的に活動をしていま

す。そしてロータリークラブで新しい出会いと奉仕の感動を分かち合いませんか」と呼びかけています。皆さんの方がうまくロータリーについて語られるのではないのでしょうか。一度、ご自身でどう伝えるかを考えてみてください。

さて、私は旭川で小さな美術画廊を営んでおります。画廊を開いて7～8年が経ったころ、私は自分の専門的な知識と人とのつながりを活かして、アートを主軸に街に貢献ができないかと考えていました。旭川は彫刻の街、市内のいたる所に彫刻が設置されています。しかし野外に設置された彫刻は時を経て、周辺環境が変わるとその場にそぐわない彫刻も出てきました。この問題解決に『旭川彫刻フェスタ』という事業を提案しました。この計画に関心を持ってくれたのがロータリークラブの皆さんです。

旭川市内の3つのロータリークラブで卓話をさせていただきました。その中の1つ、旭川西ロータリークラブに2005年初の女性会員として入会をさせていただきました。その事業は今年20年を迎えています。

また、国際奉仕事業に関わったことも私のロータリー観に大きな変化をもたらしました。2015年から4年間、地区のV T T委員長を務めましたが、海外から専門家チームの受け入れや、日本から海外へ派遣に関わる中、V T Tは研修生の向こう側に多くの人がいる。その人たちのための人道支援であることが分かりました。

また、タイやマレーシアから研修生を5人ずつ受け入れましたが、帰国後、タイの研修生が2名、またマレーシアの研修生も2名がロータリーに加入し、いまそれぞれに地域でロータリアンとして活躍をしてくれています。これほど嬉しいことはありません。

ロータリーには、ロータリーの不思議な力『マジック・オブ・ロータリー』があるといます。それは知らないうちに形成される世界中の人との人間関係と深い絆です。皆さんもストーリーテラーとしてご自身のストーリーを語ってロータリーの魅力を広げていただければ幸いです。My Rotaryにそのリソースがあるので、ぜひ活用してみてください。

さて、ジョーンズR I会長は年度のテーマを「イマジンロータリー」と発表されました。スピーチでは、世界にもたらす変化を想像して大きな夢を描き、その実現のためにロータリーの力とつながりを活かすように呼びかけました。

そして「D E I」、多様性・公平さ・インクルージョンを優先項目とすることを求めました。多様性は、ロータリーの長年にわたる中核的価値観のひとつであり、最大の強みでもあります。そしてインクルージョンこそが、会員増強のカギになると言えます。

その上で、「ロータリーでの参加型奉仕・人間的成長・リーダーシップ開発・生涯にわたる友情こそが目的意

識と熱意を生み出す」と言いました。さらに「会員が、ロータリーに何を期待しているのかを尋ねた上で、やりがいのある責任を会員に与えることが重要だ」と説きました。

加えて、「2023年までにロータリーの会員基盤の30%を女性にする」というR I理事会の目標についても触れていました。110カ国以上で既にこの目標は達成されていますが、日本では7%、2500地区では5%にも達していません。ローターアクトでは既に会員全体の52%が女性であることを指摘されました。2500地区で私は10%を目指したいと思っております。

「私たちは、みんな夢があります。しかし、そのために行動するかどうかを決めるのは私たちです。ロータリーのような団体が、『ポリオ根絶』や『平和の実現』といった大きな夢を抱くなら、それを実現させる責任は私たちにあります」と締め括りました。

ここで、R I会長のテーマ発表のシーンを動画でご覧いただけます。

(R I会長のテーマ発表のシーンを上映)

R I会長は、「私たちはともにロータリーをイマジンするに当たり、もっとも重要なタスクはすべてのロータリー会員が『歓迎されている』『大切にされている』と感じられる経験を提供すること」だと言います。「会員の多くがロータリーとの強いつながりが実感でき、ロータリーでより豊かな経験を持つことが重要だ」と説いています。

ロータリーの調査によりますと、2020年の1年間ロータリーへの入会者は121,000人。退会者は137,000人です。そのうち1年以内に退会した人は13,000人に上ります。また退会者の23%が「クラブ環境」を理由に挙げています。ロータリーの成長に会員拡大は欠かせませんが、会員維持も重要です。R I会長は、「心地よさと会員への配慮を優先項目としてクラブ内で『D E I』について対話を始めてほしい」と呼びかけています。

地区スローガンは、「ともに紡ごう！ロータリーの未来へ」といたしました。そして、地区活動方針を大きな夢を紡ぐために10項目を挙げさせていただきました。

ロータリーの一番の大切な財産は会員です。そして、目的達成には会員の団結力が不可欠です。ロータリーを成功させるためには、奉仕とプロジェクトのインパクトを高め、地域社会におけるロータリーの認知度と理解度を高めることです。そして何より重要になることは、会員増強と会員維持です。会員基盤を成長させることで、私たちはさらに多くのことを達成できるようになります。

「DEI」を取り入れて、女性や若い人をクラブに迎え入れましょう。会員が増えることで会員基盤を強化し、会員の参加を促してください。この時に、シニア会員への配慮も欠かせません。シニア会員と若い会員の交流が図られているクラブは活性化がうまくいっているクラブです。

また入会希望者の話を聞いて、もし既存のクラブで参加が難しい場合は、その人にあった条件で参加できる新クラブを考えてみてください。8名で衛星クラブが設立できます。今年度は、革新的なクラブ・活動分野に基づくクラブの設立を期待しています。

インクルージョン溢れるクラブをつくる上で重要なことは、違うバックグラウンドを持った人たちが良い仲間になれるかどうかです。そのために必要なことは、他者を思う気持ち。他者への思いやりと変化を受け入れる柔軟な心を持つことではないでしょうか。「イマジンロータリー」は夢のあるテーマです。

そして、クラブ活性化には、

1. 家族を行事に誘う。
2. ローターアクトに活動に参加をしてもらう。
3. クラブのWEBサイト、ソーシャルメディアを更新する。
4. 地域のあらゆる種類のリーダーとつながりを築く。
5. どのような人がロータリーに相応しいか、新しい人にも声をかけ、活動やイベントに参加をしてもらう。
6. ストーリーテラーになってロータリーの素晴らしさを伝え、広げる。
7. シニア会員と若い会員のコミュニケーションが図られている。

ということが言えます。

「いまほど大切な時間はない。時間は見方でも敵でもあり得る。それをどうするかはあなた自身。あなたの目標、そして与えられたすべての時間を活かすことへのあなたの決意次第だ」とジグ・ジグラーは語っています。

イマジン、想像してみてください。成長し強固になったクラブを。来年の6月30日、2500地区とともに貴クラブも「素晴らしい1年であった」と会員がみんな思っていることを想像してみてください。

ぜひ有意義な1年を過ごしていただくことをご祈念申し上げます。私のスピーチとさせていただきます。

本日はありがとうございました。

会長謝辞

久木ガバナー、ご講話をどうもありがとうございました。

画像を見ても非常にスマートで核心を得た内容だと思います。私はRI会長方針を拝見していて、会員に関してうまい表現をしていますね。回転ドアを例えにして、「10人が入ったと思ったら同じ方向で10人外へ

出て行ってしまった」と。これはビツタシと言ったら悪いけれども、とても的を射た表現だと思って記憶に残っております。

RIであれ、地区であれ、方針で会員増強という熱意を言っています。RI会長の言葉は英文字で「DEI」としましたけれども、「D:ダイバーシティー」多様性という言葉に私は昨年「あっ、これは、キーワードだ」と思いました。それを結びつけるのに私のタイトルで「身近」という言葉をつけました。ということは、多様性ということは、ある程度の振幅のある活動が容認されるという意味に解釈しました。

いままでのような奉仕活動、何か基金ができればプレゼントをするとか、何か一緒に作業をする、などそのような奉仕活動もありますが、はっきり言わせて釧路の現状では、それではもう間に合わない。街がこのような衰退の入口にはっきり入った段階によって、街の経済基盤を何とかしたい。それは奉仕活動とは無縁であるけれども、奉仕活動を行う前提では経済基盤がグチャグチャでは全然つじつまが合わないわけです。ロータリーは人数をベースとして、会員数も管内で増えていますけれども、それと将来の人口減がデータで出てきていて、つじつまが合わないわけです。そのところ、私はキーワードで思い切ったことをしようと思いました。なにせRIから多様性と認められたわけだから、そしてその中には経済関係の言葉も入って良いと思うので。

先ほど、私と幹事とガバナーで、別室で話をしました。そこで、活動計画書の第2項目の質問を受けました。「釧路の地政学研究」と書きましたが、この地政学は非常に幅がありまして、経済問題であれ、交通であれ、何でも街の基盤づくりを表現したものです。その基盤を考えないことには、正直言って釧路にいても安心できないので、このような謝辞の段階でいう言葉ではないですけれども、私はキーワードとして「多様性」と「身近」を仕掛けました。これでいわゆる従来の奉仕活動ではない。本当に市民層で実感を得るような奉仕活動を作りたいと思ひまして、少し冒険に走りました。

これからガバナーはまだまだ回りますけれども、例えて言うなら四国のお遍路さんは88箇所です。ガバナーの今後は60箇所のクラブ訪問を控えています。訪問数では負けるけれども距離数ではお遍路さんどころの話ではなく、大変な作業でございますので、その分の御利益がありますように、無事に終わられますように、ご祈念申し上げます。会長謝辞とさせていただきます。

どうもありがとうございました。